



豊田で初めてのあいちトリエンナーレ

多彩な作品  
過去最高の来場者数  
まちの賑わい



photo:Takeshi Hirabayashi

開催概要

あいちトリエンナーレ 2019 情の時代 Taming Y/Our Passion (豊田会場)

会期：2019年8月1日(木)～10月14日(月・祝) 75日間(開館日：67日)

休館日：毎週月曜日(祝日を除く)

会場：豊田市美術館及び豊田市駅周辺

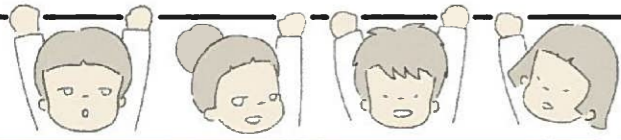
来場者数：121,687人 ※あいちトリエンナーレ 2019 全体：675,939人

ボランティア活動者数：174人 ※あいちトリエンナーレ 2019 全体：866人





## 豊田会場での関連の取組



## (1) 自然葡萄酒博覧会でのPR

date. 4月14日 sun.

自然葡萄酒博覧会にて、あいちトリエンナーレPRブースを設置し、あいちトリエンナーレの紹介をしたり、あいちトリエンナーレに関する謎解きゲームを行いました。  
来場者数：約550人



## (2) 豊田会場実行委員会の立上げ

date. 4月24日 wed.

豊田会場の準備や開催運営などを行うための実行委員会を立ち上げました。

委員6名

会長：豊田市 副市長 杉山 基明

副会長：豊田商工会議所 副会頭 河木 照雄

監事：ひまわりネットワーク株式会社 取締役 熊崎 浩二

委員：公益財団法人豊田市文化振興財団 専務理事 宮川 龍也

一般社団法人ツーリズムとよた 専務理事 山崎 淳

豊田市美術館 館長 村田 真宏

## (3) 「とよトリ隊」の結成

結成日  
date. 5月11日 sat.

「豊田でトリエンナーレを楽しみたい・盛り上げたい!」という人たちが集まり、おもてなしや交流を楽しみました。

登録者：51人

(内 訳)

公式ボランティア登録者・トリエンナーレファン・まちづくり関係者など

♂ 男性 15人 ♀ 女性 36人

市民 53%

★活動についてはP.48～の「とよトリ隊の軌跡」で詳しく紹介!



#### (4) オープニングイベント「とよトリ祭」

date. 8月1日 thu.  
18:00~20:30

「とよトリ祭 橋の下盆踊り in TOYOTA BUDOKAN」として、豊田を拠点に世界的に活躍するパンクバンド TURTLE ISLAND の永山愛樹氏プロデュースの盆踊りを開催。五平餅等をはじめとした飲食販売ブースや、とよトリ隊ワークショップもあり、豊田ならではの雰囲気でもてなしました。

場 所：旧豊田東高等学校 武道館及びその周辺 来場者数：約 600 人



とよトリ祭 チラシ

(5) 豊田市ビジターセンター「とよた大衆芸術センター [TPAC]」

お茶をしたり、作品をみたり、メッセージを残したり…多様な国や地域から人々が訪れました。  
来場者数 7,238人



カフェ & バー  
「WORK BENCH COFFEE ROASTERS」

こだわりのコーヒーや豊田産の果物をつかったソーダなどを提供しました。



和田唯奈、大山奈津子（しんかぞくメンバー）の絵画、トモトシの過去作《フルーツとしてお金を売る》の展示

豊田に長期滞在した参加作家たちが、制作場所として使用したとよた大衆芸術センター [TPAC] に自らの作品を非公式の隠れ作品として残し、ビジターセンターを訪れるトリエンナーレファンを喜ばせました。



interview



アーティストインタビュー 和田唯奈

あいちトリエンナーレ 2019  
豊田会場出展作家インタビュー映像

トモトシ、アンナ・ヴィット、和田唯奈の3人のインタビュー映像で、作品制作時の裏話などを作家本人が紹介しました。



アーティストインタビュー アンナ・ヴィット

とよた市民アートプロジェクト  
「Recasting Club」メンバーによる展示

メンバー6名が各スペースで個性あふれる展示を行いました。立体、インスタレーション、ワークショップ、絵画など多様な作品が並び、にぎやかな空間になりました。



(6) トリエンナーレ関係者トーク

とよた大衆芸術センター [TPAC] にて、週末の夜、トリエンナーレの関係者によるトークイベントを開催しました。全16回開催し、約260人が参加。

talk schedule

8月11日 sun. 「TPAC カフェ 豊田会場来場者交流会」

8月16日 fri. 「アシスタントキュレーター 石川 達紘」①

8月17日 sat. 「アシスタントキュレーター 石川 達紘」②

8月23日 fri. 「コーディネーター 鈴木 一絵」①

8月24日 sat. 「コーディネーター 鈴木 一絵」②

8月30日 fri. 「コーディネーター 山口 伊生人」

8月31日 sat. 小田原 のどか オーディエンスミーティング

9月6日 fri. 「キュレーター 能勢 陽子」①

9月7日 sat. 「アーキテクト 山岸 綾 & アーキテクト 栗本 真言」

9月8日 sun. 「トモトシの部屋」(トモトシ本人が作品を解説)

9月12日 thu. 小田原 のどか & 毒山 凡太郎 オーディエンスミーティング

9月14日 sat. 「アーキテクト 山岸 綾 & 建築家 小野 健」

9月15日 sun. 「コーディネーター 村松 里実 & アシスタントキュレーター 三木 茜」

9月20日 fri. 「キュレーター 能勢 陽子」②

9月27日 fri. 「コーディネーター 阿部 美里」

9月29日 sun. 「月刊武藤」(2010, 2013, 2016 アーキテクト 武藤 隆 & 毒山 凡太郎)

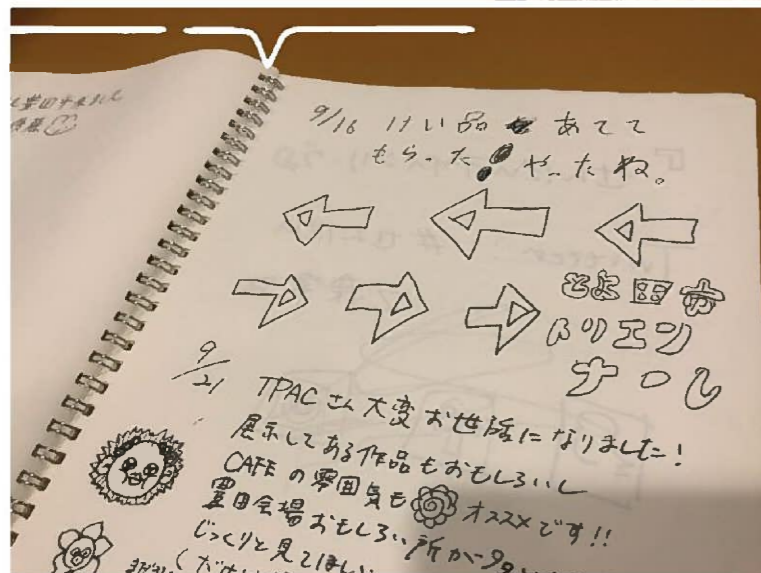


豊田会場に関する SNS (Twitter) でのコメントの展示

SNS 上の豊田会場に関する率直な意見やおすすめのポイントなどがかかれたコメントを紹介。

その他とよトリ隊による 交流の仕組みや展示

会場周辺のおすすめスポットが書き込める「とよたのイイところマップ」や「おもいで交換ノート」、「おもいで掲示板」など、来場者が感想や情報を残し、共有できる仕組みを用意しました。



### (7) 農村舞台アートプロジェクトコラボ企画バスツアー

date. 8月14日 wed.

地域の文化財である農村舞台を「ギャラリー」や「劇場」として見立て、展覧会やライブを地域住民と共働で開催する企画。農村舞台アートプロジェクト自体は、10周年となりますが、今年度はあいちトリエンナーレと合わせて楽しめるバスツアーを開催しました。参加者数：19人（定員20人）



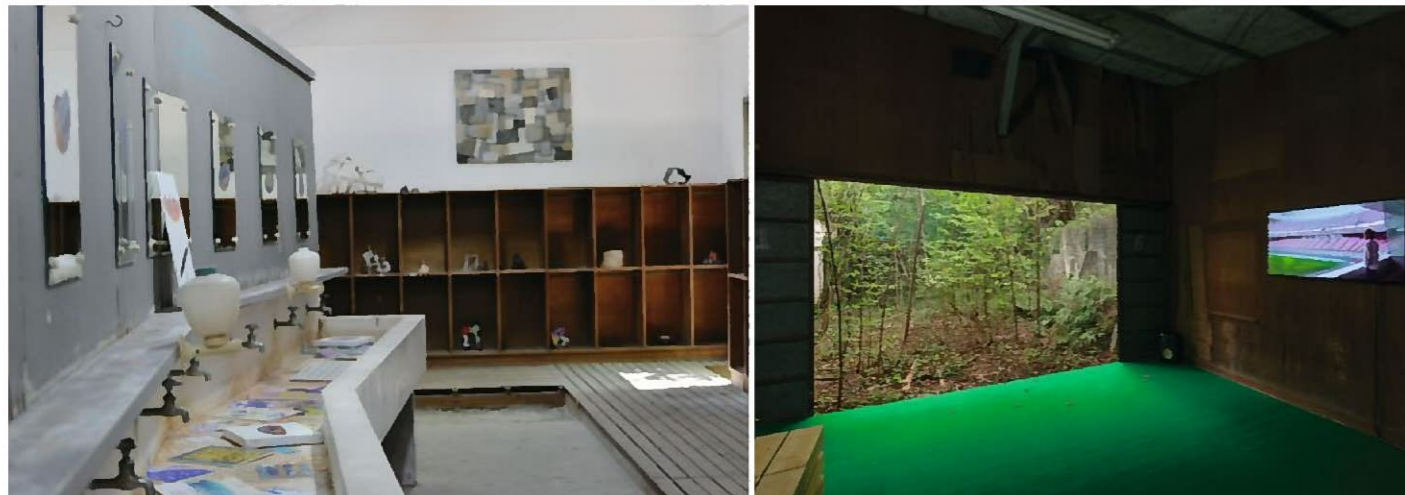
### (8) とよた市民アートプロジェクトメンバーによる展覧会「としのこえ、とちのうた。」

date. 9月13日 fri.

date. 10月14日 mon.

旧豊田東高等学校は、あいちトリエンナーレの会場となる前から、とよた市民アートプロジェクト「Recasting Club」の活動の場となっていました。あいちトリエンナーレの開催と同時期に、とよた市民アートプロジェクトのディレクターであるNadegata Instant Partyの中崎透氏がキュレーションし、アーティスト・荒木優光氏とメンバー9人による展覧会を開催しました。

会場：旧豊田東高等学校（体育館、弓道場周辺）来場者数：6,520人



### (9) まちあるき企画「西町アート散歩」

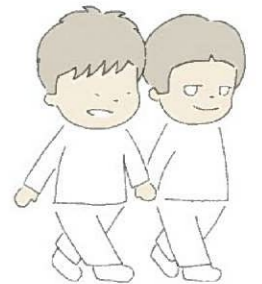
date. 9月21日 sat.

2か月に一度、第3土曜日に開催されるマーケット「西町散歩」との連携企画。アシスタントキュレーター石川達紘氏とともに西町地内にある展示作品をめぐり、作品鑑賞後はマーケットを楽しむ企画を実施しました。

参加者数：14人



新発見！再発見いっぱい。  
みんなと一緒に楽しく散歩！



### (10) ボランティア情報交換会

date. 9月21日 sat.

19:00～21:00

あいちトリエンナーレ豊田会場で活動するボランティアスタッフ、運営スタッフ、事務局スタッフが顔を合わせて、情報や意見を交換する機会を設けました。豊田会場をより良くするため、様々な改善策をみんなで考えました。

実現した改善策

- ボランティア同士の交流ノートを設置
- スタッフ駐車場などの情報のメール配信
- ボランティアポスト配置の変更
- 混雑状況のSNS配信

(11) 「HYBRID BUNKASAI II」



date. **10**月**5**日 sat. / **6**日 sun. / **13**日 sun.

※12日(土)は台風の接近により中止

あいちトリエンナーレの会場のひとつである旧豊田東高等学校を舞台にしたとよた市民アートプロジェクト「Recasting Club」による企画。公募により集まった44組と、ゲスト6組が展示やパフォーマンス、ワークショップや演奏、物販など思い思いの形で表現しました。

あいちトリエンナーレ豊田会場の中でも特に入場者数の多い旧豊田東高等学校で行うことで、トリエンナーレへの来場をきっかけに、豊田の様々な文化活動を知ってもらう機会となりました。

会場：旧豊田東高等学校 来場者数：5,200人

10月13日にはあいちトリエンナーレ豊田会場フィナーレも開催！「あいちトリエンナーレ地域展開事業 現代美術 in 豊田」の参加作家コタケマンの《みんなの塔》が限定復活。来場者を巻き込んでお祭り騒ぎでした。



思わず記念撮影！



(12) 愛環ウォーキングとの連携

愛知環状鉄道主催のウォーキングイベントと連携し、ウォーキングコースの中に豊田会場の6か所を設定。ウォーキングの途中で現代アートに気軽に親しんでいただきました。

参加者数：900人



date. 10月14日 mon.

(13) クリムト展とのセット券の販売

あいちトリエンナーレ 2019 豊田会場と豊田市美術館で同時開催のクリムト展の両方が観覧できるお得なセット券を販売しました。

販売枚数：19,816枚



(15) シャトルバスの運行

会期中、新豊田駅前と美術館を繋ぐシャトルバスを、豊栄交通株式会社の協力により1乗車200円で土日祝日のみ運行しました。車両やバス停の装飾は、同時開催のクリムト展とコラボレーションし、走行中も来場者の目をひきました。

利用者数：8,140人



(14) ラッピングハーモの展示

豊田市内でシェアリングサービスが行われている超小型電気自動車「Ha:mo (ハーモ)」の車両をあいちトリエンナーレ 2019 のデザインでラッピングし、会期中、豊田市ビジターセンターなどに展示。また、あいちトリエンナーレ地域展開事業開催時にも実施した SNS をつかった投稿イベント「ハーモをさがせ！」(トリエンナーレラッピングハーモの写真をタグを付けて SNS に投稿すると抽選でプレゼントをもらえる企画) も再び実施し、多くの人の注目を集めました。



(16) とよたアートプログラムマガジンの発行

6月の創刊号から10月まで「とよたアートプログラム」マガジン(略してTAPマガジン)を毎月発行し、トリエンナーレ来場者に豊田市内の文化イベント等のPRをしました。トリエンナーレ関係者のインタビューやまちなかの飲食店の情報などを取り上げました。

発行部数：41,000部

WEB版は  
会期後も継続中



(17) 「とよたデカスプロジェクト」での「ここデカスオプション」

「とよたデカスプロジェクト」は、豊田市の魅力を市内外へ発信するためのアートプロジェクトの企画案を募集し、実現をサポートする事業です。集まった企画を審査し入選した場合は賞金や広報のサポートなどが受けられます。2014年度から実施していますが、今年度は募集コースに「ここデカスオプション」を設定し、あいちトリエンナーレやラグビーワールドカップが開催されている期間に周辺エリアで行ったものに対して、賞金が上乗せされる仕組みを導入しました。

ここデカスオプションが付加された企画数：4企画 総来場者数：3,434人



アートデイズとよた「Toyota Specific」

TOYOTA HACK CAMP

(18) まちなか店舗との連携

まちなか宣伝会議と連携し、まちなかサポーター店で会期中にあいちトリエンナーレのチケットを提示するとお得なサービスが受けられる企画を実施しました。

参考：松坂屋、T-FACE

8月1日～10月14日 来館者数前年比7.4%増加

(19) 豊田会場独自の刊行物の発行

豊田会場おすすめルートマップ

豊田会場全体を巡る際の推奨のルート写真付きで紹介。スタートが豊田市駅下インフォメーションからと、豊田市美術館からの2パターンを発行。

電車で巡る豊田の「あいちトリエンナーレ2019」ゆかりの地

豊田会場で展示された作品に関する場所を最寄り駅と一緒に紹介。

はじめてのあいちトリエンナーレ

現代アートに馴染みがなく、初めてあいちトリエンナーレを知った人に向け、親しみやすい作品や楽しみ方を紹介。

### はじめてのあいちトリエンナーレ

豊田で初開催の現代アートの祭典、あいちトリエンナーレ。名前は聞いたことあるけど、「現代アートってなに? 難しくてよくわからない!」って方が多いですよ。そこで、豊田会場実行委員会事務局がはじめてでも楽しめる豊田会場作品をご紹介します! 無料で観覧できる作品がほとんどですので、気軽に楽しんでください!

**＝豊田会場おすすめ作品＝**

豊田会場は、豊田市美術館と、まちながに6会場あります。なんとまちなが会場はすべて無料です! 会場の詳しい場所は分りガイドマップや右のルートマップをご覧ください。 **102** がつく番号はマップ上での目印です。

① 初田唯真(しんがせく)「レンタルあがちゃん」

「あがちゃん」をレンタルしてミッションをクリアする参加型の展示ゲームパークにしたい!

今年まつりなど豊田に関する盛り上がり!!

102a 豊田の駅下・シティプラザ(サイゼリヤの向)の2か所 豊田の駅下からスタート! (無料) 「レンタルあがちゃん」 2019

② トモトシ「Dis Your Dreams.」

大発見!! 豊田市駅前通商? あれ? この通商、あのお馴染みの企業のマークに似てませんか?

豊田市民が参加した発掘ワークショップの模様では、ありえないものが次々と発掘されていきついでにコミミも出てくる!

101 豊田の駅下(インフォメーション第6) (無料) Dis Your Dreams. 2019

くすんちゅうチャットモトジ作品がおすすめの方は、豊田の駅下インフォメーション・よふた大衆芸術センター(TPAC)にも過去作品の展示がありますのでぜひ!

観覧に続く! →

③ 小田原のどか「!」

巨大な台座の上に置かれて、自分さまで彫削作品の一部を削りたい!

102b 豊田の駅下(無料) 「!」(1946-1948) 2011-2019

④ スクワッドドリフト「Shy!ght」

運転した事上げることが出来ます。遊べる!

102c 新ふた公園(無料) 「!」(1923-1931) 2019

楽しいフォトスポットとしても楽しめる小田原作品ですが、豊田の駅下のもうひとつの会場へ行くときおみやげの買物や、日本の歴史についても考えることができます。

102d 名鉄豊田駅前下(無料) 「!」(1946-1948/1923-1931) 2019

ふわふわと触れたい! 不思議なライト? クラゲ? お花? パレエのチュチュ?

102e 豊田の駅下(無料) 「!」(1946-1948/1923-1931) 2019

実は植物の群衆運動を研究して作られているんだって!

101 豊田の駅下(チケットが必要、クリムト展も同時開催中、あいちトリエンナーレ(豊田のみ)とクリムト展の両方セット券があります) Shy!ght 2018

おすすめのお楽しみ方① ボランティアさんに話をきこう!

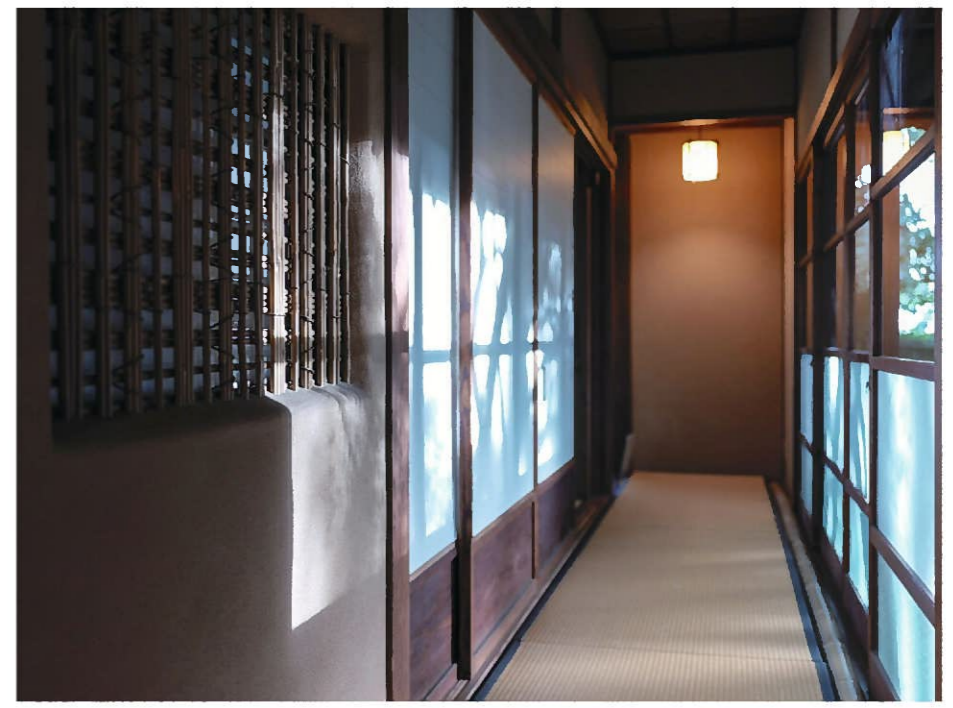
楽しみ方の糸口がみつけれないときは、近くにいる所ジョウのスタッフに気軽に話をきいてみよう! 話すことで作品の新しいおもしろさが見つかるかも。ガイドツアーもおすすめ。

<ガイドツアー> 無料参加制、事前申込不要 実施日: 土・日・祭日の午前11時から、午後2時から 実施場所: インフォメーション第6会場 まで申込: 日 毎の午後4時から 豊田の駅下インフォメーション第6会場

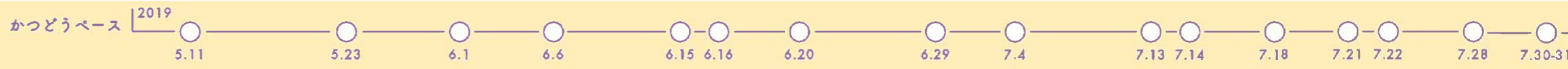
おすすめのお楽しみ方② ビジターセンターに行ってみよう!

豊田の駅下ビジターセンター(よふた大衆芸術センター(TPAC))では、トリエンナーレ豊田会場作家の個展作品やよふた市民アートプロジェクトメンバーの個展の展示がみつけたり、豊田の新しいお土産がみつけたり...盛りだくさん! おしゃれなカフェ・BARもあるのさつまっり休めれます。

こちらで紹介したのはほんの一部! おもしろいな、と思ったらぜひほかの会場もまわってみてください。



# とよトリ隊の軌跡



「豊田でトリエンナーレを楽しみたい!」をきっかけに結成したとよトリ隊!  
あいちトリエンナーレ 2019 開幕前からの軌跡を振り返ります。

## START!

2019.5.11

01.

**とよトリ隊結成!**  
チラシなどを見て集まった30人の隊員たち。  
きっかけは様々ですが、自己紹介やトリエンナーレでやってみたいことなどをお話して交流を深めました。



### 「トリエンナーレとは?」

能勢キュレーターとお話。  
なんと、津田芸術監督が飛び入り参加!

02.



2019.5.23

### 「おすすめのスポットをマッピング!」

05.

6月1日のまち歩き振り返り。  
まちなかにあるおもしろいスポットやおいしいお店を地図に書き込みました。

2019.6.15



2019.6.6



04.

### 「使われていない学校を夜に探検」

8月1日に行う豊田会場オープニングイベントの開催候補地、旧豊田東高等学校を探検しました!

2019.6.1

03.

### 「アーキテクトとまち歩き!」

あいちトリエンナーレ 2019 アーキテクト(建築関係の専門家)である山岸綾さんと一緒に、会場候補地を巡りながらまち歩きをしました。



### 「しんかぞくとお掃除」

06.

和田唯奈(しんかぞく)さんのアーティストサポートとして、展示会場のシティプラザをみんなでお掃除!  
長年使われず汚れて黒くなっていた床がきれいに!

2019.6.16



2019.6.20

07.

### 「アーティストトーク」

豊田に滞在制作中のトモトシさんと和田唯奈さんのこれまでの活動などのお話を聞きました!  
そのあとは交流会へ!



2019.6.29

08.

### 「豊田会場を楽しむためのアイデア出し」

おすすめスポットを書き込める巨大マップの作成やスタンプラリーをやる!ということになりました。  
高嶺格さんが現れるという嬉しいサプライズも!

11.

2019.7.14



トモトシさんの発掘ワークショップに参加しました。

### 「作品に出演!？」

2019.7.13



10.

### 「BBQ 交流会」

豊田のまちなかに住む方々も巻き込んで、新とよパークでバーベキュー!  
オープニングイベント「とよトリ祭」のチラシも完成して、いよいよ開幕が近づいてきました!

2019.7.4

09.

### 「オープニングイベントの準備!」

会場の夜道を照らすたんころりん(豊田足助地区の伝統的な行灯)の和紙に装飾をしました。



2019.7.18

12.

「ワークショップはプレスレット作り」

オープニングイベントで行うワークショップブースの準備をしました。プレスレットを装飾するワークショップに使うプラバンをみんなでデザイン。

また、スタンプラリーで使うはんこも、消しゴムはんこで手作りしました。

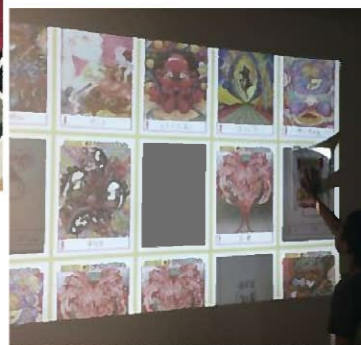


2019.7.21

13.

「レンタルあかちゃん初体験」

和田唯奈（しんかぞく）作品をいち早く体験できることに…！体験した感想をしんかぞくのみなさんとお話しました。



15.



「着々と…」

2019.7.28

おすすめスポットを書き込む「豊田のいいところマップ」や「おもいで交換ノート」をTPACに設置しました！

来場者が誰でも気軽に書き込める仕組みで楽しんでもらいます。

また、別室ではとよトリ隊展示班が自らの作品展示！夜は、とよトリ祭のPRティッシュ配り！おいでん祭り花火大会に訪れたみなさんにPRしました！



2019.7.22

14.



「とよトリTシャツ完成」

引き続きオープニングイベント「とよトリ祭」の準備をしました！みんなでアイデアを出し合って作ったとよトリTシャツは、あいつり公式カラーより少し淡い紫にしました。

2019.7.30-31

16.

引き続きPRティッシュ配り！

2019.8.1

17.

「ついに開幕！とよトリ祭！！」



予想以上の熱さ、予想以上の来場者！とよトリ隊員は受付で熱中症対策グッズを配るという任務も！ワークショップブースも大盛況でした。



2019.8.10

18.

「豊田のまちなか会場をみんなでまわりました！」

一緒にまわると感想も共有できて楽しい！この日から、とよトリ隊スタンプラリーが開始。スタンプラリーの台紙はうちわ型になっていて、暑さ対策にもなる優れもの♪



引き続き「おもいで掲示板」を作成。5日の間に既に答えてくださった方も…！

2019.8.24

2019.8.29

21.



「おもいで掲示板」

今後の活動のひとつとしてアイデアがでた「おもいで掲示板」を制作！一問一答形式で来場者に感想などを書いてもらいます。



20.

2019.8.18

「懇親会」

とよトリ祭の振り返りをしつつ懇親会！そして今後の活動について話し合いました。

19.

2019.9.7 「ガイドツアーに参加」

豊田市美術館でガイドツアーに参加しました。ガイドボランティアさんのお話を聞くと2倍楽しめました！

22.

2019.9.21 23.

「西町アート散歩」

石川アシスタントキュレーターのお話を聞きながら西町周辺の会場を巡り、その後は西町でグルメも楽しみました。



西町グルメ...  
また食べたいな



2019.9.26

24.

「コタケマンとご対面♪」

10月12、13日に豊田会場フィナーレを行うことに！あいちトリエンナーレ地域展開事業に出展していたコタケマンと一緒になにかおもしろいことをしようと企みました。



コタケマン！



2019.10.11

「小道具を作成」

コタケマンが集めた白い布で大きな旗をつくりました。

28.

27.

2019.10.10

「顔はめパネル」

フォトブースとして、コタケマン《みんなの塔》を模した顔はめパネルを制作しました！  
絵の具を流すのってむずかしい！



2019.10.3

26.

「フィナーレの準備」

いろいろとおもしろ案がでました。菓子撒きやフォトブースを設置することに！

2019.9.29

25.

「迫るフィナーレ」

フィナーレでとよトリ隊としてなにをやりたいかアイデアを出し合いました。

2019.10.12

29.

「台風接近」

フィナーレ1日目は中止に...

2019.10.13

30.

「豊田会場フィナーレ」

みんなの思いが通じて快晴の一日に！《みんなの塔》や白い旗も青空に映えました。塔のてっぺんからのお菓子撒きも大盛況でした！



2019.10.14

31.

「豊田会場  
打ち上げパーティー！」

新とよパークがみえるお店で豊田会場作家さんやボランティアさんと盛り上がりました！司会やクイズの出題をとよトリ隊員が担当しました！



GOAL!

2019.12.3

35.

「とよトリ隊の今後」

今後も「とよトリ隊」という名前でも継続して集まることに。定期的に美術館へいたり、イベントに参加をしたり、という活動を続けていこう！となりました。



これからも  
よろしく！

2019.11.16

34.

「とよトリ隊の活動の振り返り」

なんと30回以上も集まって活動をしていました！トリエンナーレの楽しかった思い出を語り合いました。

2019.10.31

33.

「とよトリ隊打ち上げ！」

津田芸術監督や石川アシスタントキュレーター、山岸アーキテクト、山口コーディネーターなどたくさんのゲストも参加してくださり、とっても楽しい会になりました。



2019.10.17

「余韻に浸る」

とよトリ隊展示ブースなどTPACの片付けをしてトリエンナーレの余韻に浸りました。

32.

とよトリ隊はまだまだ続く！これからも応援よろしくお願ひします。

# あいちトリエンナーレのレガシー

あいちトリエンナーレが豊田のまちに残してくれたものをご紹介します！

## (1) 出展作品(壁画)の保存

シティプラザに展示された和田唯奈(しんかぞく)の作品《レンタルあかちゃん》の一部である壁画を、建物管理者の豊田まちづくり株式会社の協力の上、会期終了後も保存することとしました。かわいらしい壁画がまちを華やかに！トリエンナーレの思い出に浸るのもよいですね！



## (2) 『豊田市デイズ』への掲載

豊田市での暮らしを紹介、提案するライフスタイルマガジン『豊田市デイズ』に、「アフター・トリエンナーレ」というテーマで特集記事を掲載しました！あいちトリエンナーレの会場となった街・豊田市の今後の展望について、アーティストや有識者の方に語っていただきました。豊田市がアートで溢れる街になるといいですね！



2020年3月発行 豊田市デイズvol.2 発行:株式会社東京ニュース通信社

## (3) 「あいちトリエンナーレがまちに残したもの」シンポジウム

副題を「一長者町・岡崎・豊橋の今と、豊田のこれから」とし、過去のあいちトリエンナーレのまちなか会場となった長者町・岡崎市・豊橋市から、各地でアートプロジェクトを仕掛けている中心人物をお招きし、それぞれのあいちトリエンナーレ後の歩みについてお話を伺いました。「生の声」をお聞きすることができ、豊田市の今後について考える機会となりました。

日時: 11月22日(金) 19時~21時

会場: 豊田産業文化センター4階交流室(豊田市青少年センター)

来場者: 53人

パネリスト: 武藤 勇(長者町/N-mark)

鈴木 正義(岡崎市/Masayoshi Suzuki Gallery)

黒野 有一郎(豊橋市/sebone 実行委員会)

モデレーター: 山城 大督(Nadegata Instant Party)



### あいちトリエンナーレがまちに残したもの 一長者町・岡崎・豊橋の今と、豊田のこれから

これまであいちトリエンナーレのまちなか会場となった長者町・岡崎・豊橋、各地域でアートプロジェクトを仕掛けてきた中心人物をお招きし、それぞれのあいちトリエンナーレ後の歩みや地域のまちづくりの今と、豊田の今後の展望について、生の声をお聞きし、今後の豊田のまちづくりの方向性についてシンポジウムを開催します。

日時: 2019年11月22日(金) 19:00~21:00

会場: 豊田産業文化センター4階交流室(豊田市青少年センター)

豊田駅前ビル1711号室

パネリスト: 武藤 勇(長者町/N-mark)

鈴木 正義(岡崎市/Masayoshi Suzuki Gallery)

黒野 有一郎(豊橋市/sebone 実行委員会)

モデレーター: 山城 大督(Nadegata Instant Party)

(豊田産業文化センター4階交流室)

参加費: 無料 定員: 60名(先着順)

申込み方法: 自由参加(申し込み不要)とし、本会にて直接参加。定員に達した場合は、申込先着順となります。申し込みは不要です。

申込先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

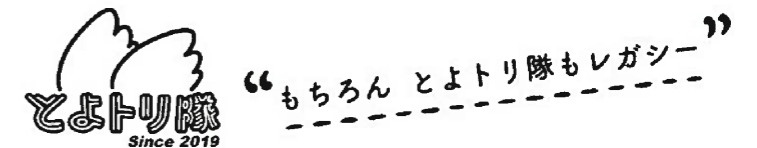
申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

申し込み先着順となります。申し込みは不要です。

### 来場者の声(アンケートから)

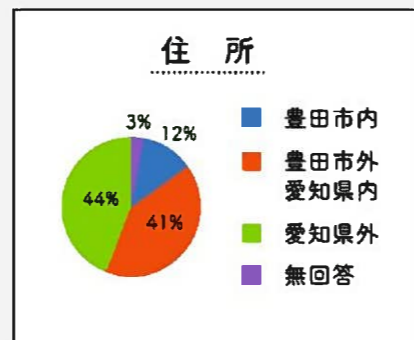
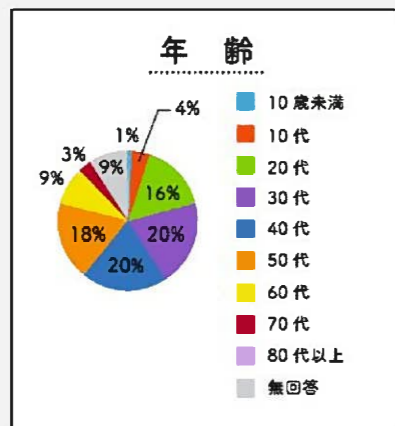
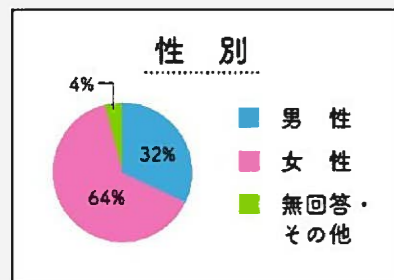
- ・トリエンナーレをやる意味を自分なりに考えた。話が楽しかった。
- ・あいち文化100年計画。まだまだやれることがありそう。
- ・閉幕後も話し合う場があったことに感謝します。
- ・あいつりがそれぞれの地域の活動にそれぞれ違う視点で影響を与えていることが伝わってきました。
- ・アートに触れたことのない人はまだまだ多いと思いますので、トリエンナーレまちなか会場の役割は重要だと思います。
- ・子どもたちへの教育(土壌づくり)も重要と思った。地域に根ざした活動が必要。町にとって文化は大事。多様な人間にとって大事。



## あいちトリエンナーレと豊田のまち

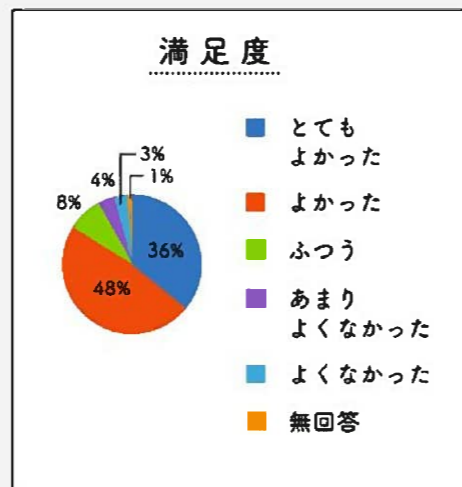
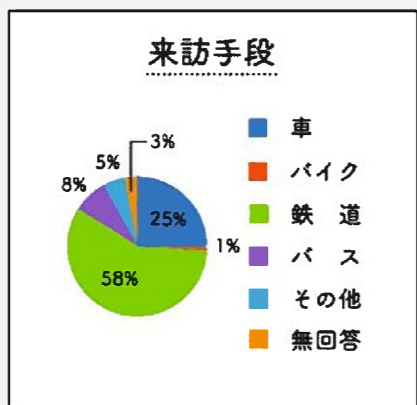
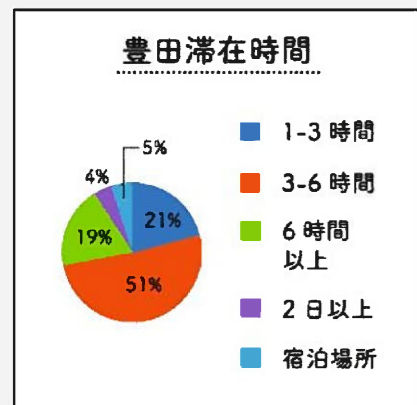
アンケート結果から、あいちトリエンナーレと豊田のまちの関係について考えます。

豊田市駅下インフォメーションと豊田市ビジターセンター（とよた大衆芸術センター [TPAC]）の2か所で実施した豊田会場のアンケート結果です。112人の方にご協力いただきました。（実施期間 9月19日～10月14日）

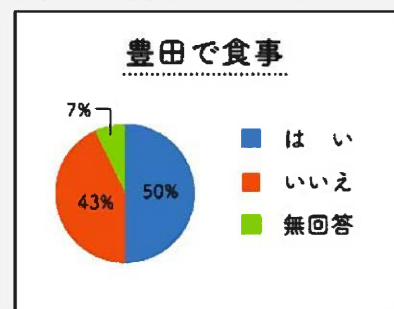


愛知県外からも  
たくさんの方が豊田に！

まち歩きして半日くらい  
滞在した人がほとんど！



豊田で食事をしましたか？



食事場所で多かった回答

- ・T-FACE（名古屋めしなど）
- ・松坂屋
- ・豊田市美術館内レストラン
- ・VITS（タイ料理）
- ・まめあん
- ・サイゼリヤ
- ・TPAC内のカフェ
- ・満福支店（うなぎ）

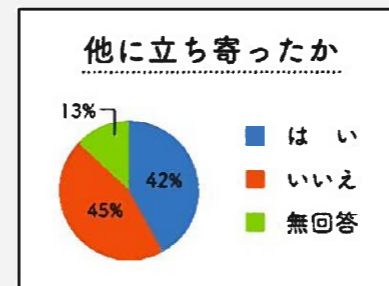
食事に使った金額

平均 **1,470** 円



豊田の美味しいお店を知ってもらうきっかけに！

トリエンナーレ会場以外の  
場所に立ち寄りましたか？

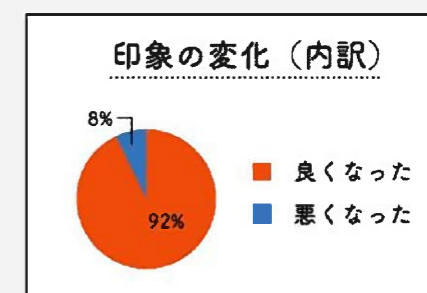
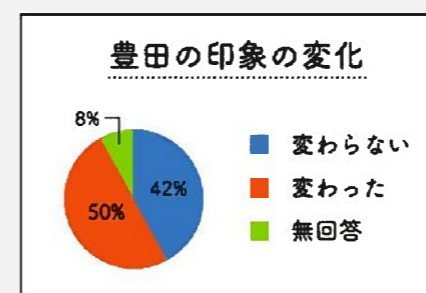


立ち寄った場所の回答

- ・コンビニ
- ・豊田スタジアム（ラグビーワールドカップ）
- ・KiTARA
- ・コンサートホール
- ・T-FACE ・松坂屋
- ・JA
- ・民芸館
- ・科学館

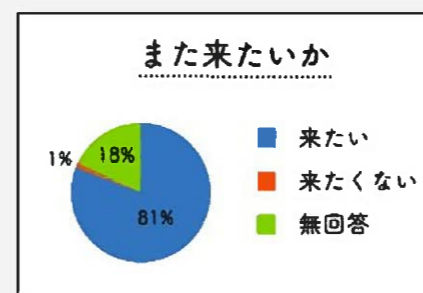


今回のトリエンナーレをきっかけに  
豊田の印象は変わりましたか？



「『自動車工場の町』という印象があったが、景色もきれい。」  
「人があったかいまちだと思う。」  
「美術館以外は芸術不毛の土地と思っていたが、印象が変わった。」ほとんどの方が豊田に好印象！  
一方で直さなければならない一面も…「車の運転マナーが悪く怖い思いをした」

また豊田市に  
来たいと思いますか？



「美術館に行きたいから」  
「景色などが素晴らしいから」  
「普段の喜楽亭をみたい」  
「おしゃれなお店、おいしそうなお店を訪れたい」  
自慢の美術館や、それ以外の魅力にも気づいてもらえました！

みんなの  
声

「豊田ならではの作品がたくさんあり、うれしく思う。」「街に活気があってよかった。」  
「スタンプラリーの取りくみや、街中の案内表示など、市をあげて取り組まれている感じがした。」  
「スタッフさんがすばらしく親切で、フレンドリーで楽しい時間を盛り上げてくれた。」





A.1  
トリエンナーレ後も豊田まで  
アンテナ張って遊びに行くよ  
うになりました。



A.1  
普段は岡崎に住んでいます。豊田方面  
には行きません。今回は豊田の町の様  
子やお店の事など知る機会になりまし  
た。新しい町だからこそその取り組みや  
風景が知れて良かったです。



A.1  
作品を通じて豊田市の歴史や文化を  
知ることができました。  
遠方から来た方にいろいろ聞かれた  
時でも地元のことなので自信を持っ  
て説明や案内ができました。



A.1  
豊田市駅付近の会場は無料ですし、現代美術  
に興味ない、トリエンナーレって何？と  
いうお客さんもたくさん来られました。そ  
の方達に、少しでも興味を持ってもらいた  
いと思って活動していました。トモトシさん  
のところで、怪訝な顔していたお客さん  
に、まっまっここ冷房も効いているし座っ  
て休んでいってくださいと引き留めて、少  
しずつお話しして、最後にガハハと笑っ  
て満足そうに帰って行かれた、こんな体験  
がなによりも嬉しかったです。



A.1  
ボランティア、スタッフさん、  
文化振興課の方達と豊田会場の  
トリエンナーレを盛り上げる事  
が出来て楽しかったです！お客  
さんとお話しすることで、改めて  
豊田市の魅力を再発見しまし  
た。



1. 豊田会場の  
ボランティア活動は  
いかがでしたか？

A.1  
豊田市には縁がなく、訪れた事は  
あまりなかったのですが、美術館も  
豊田スタジアムも素晴らしいです。  
もっと知りたいと思いました。



A.1  
これまであまり知らなかった豊田市  
が身近な存在になりました。名古屋  
市内とは別の自由な感じがしました。  
アートへの新たな接し方が発見でき、  
良い経験になりました！



A.1  
豊田会場まで足を延ばしてくださる  
お客様は、作品と対峙しようとする  
気持ちが強いように感じます。  
そんなお客様をご案内するのはとて  
も楽しく、勉強になりました。



A.1  
ボランティアを通じて豊田市民では  
ない人とも交流できたのがよかったです。  
自分では気づかない豊田の魅  
力を再発見することができました。



A.1  
地元豊田市でのトリエンナーレの  
開催で過去のボランティアの経験  
を活かせると思い参加しました。  
たくさんのお客様と接することが  
できて楽しかったです。  
ボランティア仲間との交流もあり  
ました。



A.1  
ボランティアの方々やスタッフの  
方々、皆さんと気さくにお話しす  
ることができて楽しめました。  
名古屋在住なので、名古屋での活  
動を希望していましたが、豊田で  
やれて良かったと思っています。



A.2  
旧豊田東高校の体育館であったオー  
プニングは、手作り感満載で、はちゃ  
めちな感じが面白くて印象的です！



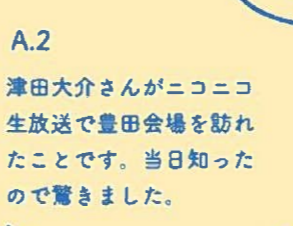
A.2  
ラグビーワールドカップと重なり人  
が多く、トリエンナーレを知らない  
人や時間のある人に作品を見ていた  
だけでした。



A.2  
豊田市美術館北の立った  
プールの作品にはビックリ。  
そしてこの作品をかこんで  
色々な方と様々な話をした  
ことが印象に残っています。



A.2  
プールサイドの  
蚊取り線香。



A.2  
津田大介さんがニコニコ  
生放送で豊田会場を訪れ  
たことです。当日知った  
ので驚きました。



A.2  
旧豊田東高校の高嶺さんの作品が都市  
伝説のように色々な逸話が加わって  
いったことが印象的でした。



2. 一番印象に残った  
出来事は？

A.2  
オープニングセレモニーが楽しかったです。  
式典会場の雑踏、雰囲気、わくわく感など。  
津田監督からボランティアの重要性の話  
を聞くことができたことも良かったです。



A.2  
名古屋と豊田の活動を希望してい  
たのですが、豊田ばかりにブッキング  
されていて戸惑いましたが結果的に  
豊田で活動できて良かったです。



A.2  
若手作家さんが時々会場に  
来てくれていたこと。



A.2  
最終日の打ち上げは思い出に  
なりました。過去のトリエンナーレでは  
ボランティア同士での打ち上げはありましたが、  
豊田会場の日本人作家さんがみなさん来てくだ  
さって感激でした。作家さん、スタッフさん、  
ボランティアさん、みんなと一緒に打ち上げ  
できて今までで一番の思い出になると思います。



A.2  
まちなか会場での活動中、腕にタトゥー  
が入っている3人組の若い男性のお客  
さんが作品を楽しそうに写真に収めていま  
した。少し怖いなと思いながらもよろし  
ければご覧になってくださいと声をおか  
けてよかったです。



A.2  
ラグビーワールドカップと一緒にできたこと。  
あんなにたくさんの人（海外の人々）が豊田  
の街に来たなんて。とても印象深かった！！



3. あいとりでの  
ボランティア活動の  
醍醐味は何ですか？



「アートで繋がる、人との輪」



4. 豊田会場と一緒に  
活動した方へ  
メッセージをどうぞ！



「おつかれさま〜」

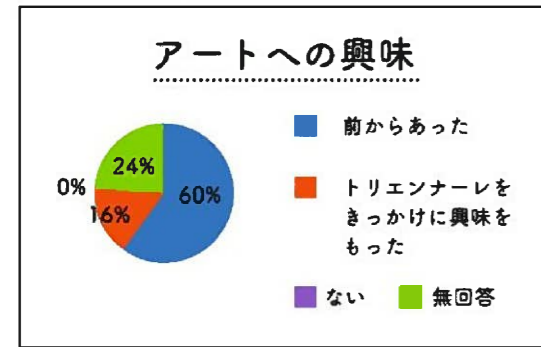
「ありがとう♡」

「また3年後に  
会いましょう！」

## 豊田市の文化の取組

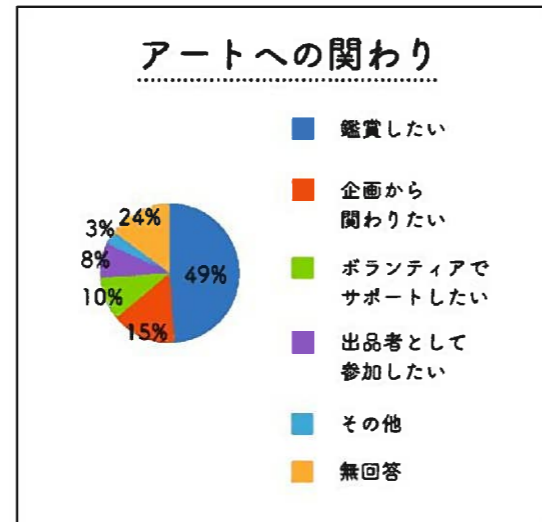
豊田市民の意見（来場者アンケートより）

アートに興味はありますか？



「街型のプロジェクト（HYBRID BUNKASAI）  
みたいなものをもっと開発してほしい。」  
「つかわれなくなった場所を活用するのはいいこと」  
「トリエンナーレのような芸術祭がまたあるといいな」

今後、アートとどう関わりたいですか？



豊田市には、  
文化事業がたくさん！

### とよたデカスプロジェクト



アートを通して豊田市の「宝（魅力）」を市内外へ発信するためのプロジェクト案を募集し、実現をサポートしています。あなたが考える豊田市の「宝（魅力）」はなんですか？プロジェクトを考えて実施し、参加者と一緒に楽しむことで、豊田の魅力伝えていきましょう！

とよた  
デカス  
プロジェクト

### 豊田市民美術展

豊田市内在住・在勤・在学の方が、日ごろ制作されているものを出品する美術展です。専門的な審査員に審査してもらうことで腕試しをしたり、分野を越えて様々な作品をみることができたり、自分の作品をたくさんの人に見てもらったり…出品料も無料なので気軽にチャレンジできるのがいいですね！

### とよた市民アートプロジェクト

芸術文化に触れる・つくる・かかわる機会をつくり、芸術文化活動者や興味・関心のある人が増えることで、面白いアートやアートを通じた様々な交流が生まれることを目的としています。アートが身近にあることで、子どもからお年寄りまで誰もがいきいきと楽しく暮らすまちなるといいですね！

プロジェクトの一環である Recasting Club（リキャスティング・クラブ）の活動については次ページで紹介 ▶▶

その他にも、音楽や演劇、伝統文化等に関するイベントや施設も充実しています。豊田市のホームページをご覧ください！



最初の晩餐 / The First Supper (2018)  
開会式でのテーブルカット

豊田市で2019年1月19日～2月11日に行われた「あいちトリエンナーレ地域展開事業 Windshield Time ーわたしのフロントガラスから 現代美術 in 豊田」に、「Nadegata Instant Party（中崎透+山城大督+野田智子）+ Recasting Club」として参加。今回のトリエンナーレでも、メンバーの作品が中心となった展覧会「としのこえ、とちのうた。」（9月13日～10月14日）や、出展、出店を公募した「HYBRID BUNKASAI II（ハイブリッド・ブンカサイ）」（10月5,6,13日）を同時開催。豊田会場と一緒に盛り上げました。

TOYOTA CITY  
**Recasting Club.**  
BY TOYOTA CITY ART PROJECT

## とよた市民アートプロジェクト Recasting Club（リキャスティング・クラブ）

2017年度からはじまった市民によるアートプロジェクト。

Nadegata Instant Party（中崎透+山城大督+野田智子）をディレクターに迎え、役目を終え閉じられていた学校や旅館など、まちのさまざまなスペースを再度開き、市民が作品を発表する場、活動する場という新しい役割にRecast（再配役）してきました。



HYBRID BUNKASAI (2018)  
グラウンドでのパフォーマンス



HYBRID BUNKASAI II (2019)  
出展者ミーティング

Check in Counter Culture (2019)  
出展者たちがTPAC館内を演奏等しながらパレード



Nadegata Instant Party  
「としのこえ、とちのうた。」出品メンバーら (2019)

## 種蒔きのあとは街から

あいちトリエンナーレの開催4回目にして、豊田市が会場の一つになることになった。芸術祭の醍醐味は、美術作品のための場である美術館に加えて、やはり人々がそこに住み暮らす街中でも作品が展開されることにある。今回新たに会場となった名古屋駅周辺の円頓寺・四間道エリアのように、豊田会場には歴史的な街並みや商店街があるわけではない。しかしだからこそ、日常の手触りの中で、誰にとっても身近で重要な間いを浮かび上がらせることができるだろう。

街中に展開される作品は、これまで見えていなかった街の顔を見せてくれた。社屋や工場は郊外にあり、中心部は特に産業都市といった風情がない駅の高架下で、トモトシはユーモアたっぷりの歴史フィクションで、文字通り街の無意識を掘り起こした。血縁によらない新たな家族や共同体の創造を目指す和田唯奈としんかぞくは、80年代の名残のあるスペースの壁を、当時人気を博したキャラクターにも似たファンシーな可愛らしさで彩って新たな息吹を吹き込んだ。小田原のどかは、戦中は軍人、戦後は女性の裸体像が置かれた東京・三宅坂の台座を駅前の公園に再現し、来場者が上られるようにして、時代や地域を象徴するものはなにかと問いかけた。

アンナ・ヴィットは、ロボットが見えないところで人間の労働に取って変わりつつあるこの街で、車製造に携わる様々な職種の人々に毎日繰り返し行っている作業を演じてもらい、一つの映像を作り上げた。労働のための人々の動きは、機械に比べて優美で親密な感情を与える。機械と労働の関係は、街のみならずすべての人にとって、未来を考察するための重要な鍵になるだろう。

近代以降の産業とともに進展してきたかみえるこの街にも、埋もれた歴史はある。戦中はむしろ穏やかだったといえる豊田市にも、他の地域と同じく戦争が通りすぎた痕が残っている。シンガポールの作家ホー・ツーニエンは、特攻隊がこの地を立つ最後の夜を過ごした喜楽亭を舞台に、京都学派戦中の思想家、宣伝部隊として南洋に派遣された映画監督の小津安二郎や漫画家の横山隆一らが登場する壮大な映像インスタレーションを展開した。「旅館アポリア」は、隠蔽された歴史を呼び覚まし、埋もれた記憶と記録の間に揺らめくいくつもの文脈を縫い合わせて、死者が属した時空に隠れて折り畳まれていた意識の層を開いた。会期も終盤に差し掛かると、産業文化センターの片隅にある喜楽亭の前に長蛇の列ができていた。

博物館建設のため取り壊される高校跡地では、高嶺格がプールの底を12メートルの高さで屹立させた。その壁は、「公共」を集約し永続性を誓うモニュメントに対するアンチ・モニュメントとして、2019年の夏そこに存在した。そして公的なものと私的なもの間で揺れる人々の様々な感情を受け止めて、壁を乗り越えるための夢を湧き立たせ、その向こう側を想像する標となった。

今回のあいちトリエンナーレ豊田会場では、作家たちが長期間ここに滞在し、また海の向こうで膨大な時間をかけて、豊田という地域性に関わることでしか成立しない作品を制作してくれた。また到底不可能とも思えそうな作品プランを共有し、実現してくれた。まず、豊田会場の作家たちに最大の感謝を捧げたい。そしてこれらの作品は、美術館の展覧会とは違い、文化振興課の職員や今回結成されたボランティア「とよトリ隊」と一緒に作り上げたものであった。今回培われた作家や地域との繋がりを基に、派手でなくても地に足を着けて、芸術が与える自由や思考、人との繋がりの可能性を、これから自分たちの力で模索していきたい。そのために、今回縁ができた作家やボランティア、すべての人たちと、ともに歩んでいけることを願っている。

能勢 陽子 (あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター / 豊田市美術館学芸員)

## あいちトリエンナーレ 2019 のその後を考える

筆者があいちトリエンナーレ 2019 豊田会場担当のアシスタント・キュレーターとして着任したのが2019年2月、開幕まで半年の時点であった。着任時の豊田市のイメージは以前から展覧会を観覧に訪れていた豊田市美術館と、トヨタ自動車がある町という程度で、正直なところ、美術館以外に文化の気配をあまり感じることのないという印象であった。

しかし、実際には豊田市文化振興課が主体となり、「とよた市民アートプロジェクト」を始め、トリエンナーレを盛り上げるために結成された「とよトリ隊」の活動など、独自の活動によって豊田会場は支えられ、トリエンナーレ本展が「表現の不自由展・その後」の影響によるイベントの延期や中止が相次ぐなか、TPACを拠点に、毎週末のようにトークイベントが開催された。また会期終盤にRecasting Clubが開催した「HYBRID BUNKASAI」や展覧会「としのこえ、とちのうた。」のように、国際展とは対照的な企画によって地域の文化の底力を示され、市民の文化に対するポテンシャルの高さに驚かされた。

このように市民による独自の盛り上げのおかげで、歴代の遠隔地会場の中で最高の入場者数を記録し、成功裏に終わったと言えるトリエンナーレを、単なる一時のお祭りで終わらせないためにはどうすれば良いだろうか。

最も理想的なのは、今回を踏まえて、次回もう一度豊田市が会場になることではないだろうか。今回、豊田市がトヨタを中心とした自動車産業の街であることに多くの作家が興味を惹かれている印象を受け、実際、アンナ・ヴィットやトモトシの作品の題材となった。しかし、仮に豊田市がもう一度トリエンナーレの会場となるとすると、今回の作品を踏まえた上で豊田市を別の側面から掘り下げて作品にするアーティストが現れるかもしれない。

あるいは豊田市が会場でなくても、今回の豊田会場の招待作家が、再び豊田で作品を制作し、発表する機会を設けるのも面白いかもしれない。豊田をテーマに作品を制作した彼らはきっと、会期を経て、あらたな気付きがあっただろう。

トリエンナーレは3年に1度、継続的に開催されることに意義があるが、2度会場になった岡崎は例外とし、名古屋の会場以外の遠隔地は単発のイベントとして終わってしまう。たとえ豊田市が次回トリエンナーレの会場でなくても、2019年をスタートとして、継続的にイベントを開催し、ボランティアやとよトリ隊のような、あいちトリエンナーレ 2019 のレガシーが引き続き豊田の町で活躍する機会を創出することで、豊田市美術館やその隣に建設される博物館とともに、文化を発展させていくことを切に願っている。

石川 達紘 (あいちトリエンナーレ 2019 アシスタント・キュレーター)

## 不可視のものの掘り起こし—トリエンナーレが過ぎるまで、あるいはその後

豊田での初の国際美術展が終了した。あいちトリエンナーレ 2019(以下、あいつりと略)のことである。

しかし豊田市美術館では1995年の開館以来、毎年のように海外の作家を取り上げてきていて、そのコレクションも海外にも知られている。特に19～20世紀のウィーンやイタリアという、フランス・アメリカ中心のコレクションを形成してきた既存の日本の美術界の中では貴重なコレクションとなっていて、それが特徴の一つでもある。そして何よりも谷口吉生設計による美術館建築の美しさである。特にその変化ある視点を内包したホワイトキューブ的空間は海外の作家にインスピレーションを与えてきたし、その後の MOMA(ニューヨーク近代美術館)とともに谷口の代表作の一つとなっている。2019年の夏から秋にかけて、その豊田市美術館でクリムト展と同時開催であいつりは開催されたが、国際美術展の焦点は言うまでもなく街なかでの展開であるだろう。

美術大学のある街には画廊が、大学があるなら古本屋があるのが通例なのだが、このような世界的な名声を誇る美術館があっても、豊田市にはそれに見合うような現代美術を展示するギャラリーが街にないし、なによりも愛知県立芸術大学が近郊にあるものの、在住の現代作家の活動はほとんど見えてこなかった。これが現状としてまずあった。実際、開館時から首都圏から豊田市美術館に来ていた者としては、美術館のみを見てすぐさま帰るといったピンポイントの接触しか豊田にはなかったのだが、それは私だけではない大方の行動だろう。

豊田の街なか展示としても、これは市内の山間部を中心に散在する幕末から近代にかけての地歌舞伎の舞台を活用したものだが、有意の在住の作家たちが企画した「農村舞台プロジェクト」と、筆者等がキュレーションした2009～10年に開催の「あいちアートの森」での(あいつりでも展示会場となった大正期に建てられ移築された)喜楽亭での展示ぐらいしかこれまで無いというのが現状であった。10数年前、当時、豊田市美術館の学芸員に赴任し手掛けた私は、学芸員に「何でわざわざ館外でやるんですか?」と問われたことさえあった。豊田市美術館は美しい。しかしそこに学芸員が安寧の美の王国を作っても、足下の人々には浸透していないままであったのだ。それが評価の傍らで開館以来20年来、役所本体との断裂にもなってきたが、問題はその向こうにいる市民の姿を想像し得ていなかったということもできるだろう。逆に言えば要は美術館を孤立させてはいけないのだ。それが美術館運営の要諦だろうし、また街なかでの展開の必要性の淵源でもある。

われわれは美術館と市民が不幸に目をそらしたような「荒野」で市民アートプロジェクトを始めた。この状況で街なか展示をしても同様に浮いてしまいかねない。それには市民を巻き込む契機が必要であった。それは単なる素人集団の賑わしとのみ捉えることは間違っている。唯う前に、この街の文化として何が欠けていて、どのような状態が理想かを深く考えるべきだ。ディレクターには各地で様々なプロジェクトを行ってきた Nadegata Instant Party(以下、ナデガタと略)を迎えたものの、市民が彼らの作品を共同で作るのではなく、はじめから言わば見えない市民の創造性のコンビネーションに賭けていた。その Recasting Club(以下、Recas)にはイベントを行うごとに様々な出自の人々が現れた。様々な会社に勤める人々、主婦や、リタイアした人、すでにギャラリーなどで発表しているアーティストまで。美術好きのボランティアもいるが、それ以上にここでははじめから狭い美術に限定していないためもあり多種多様な表現者が出現した。ここでは一つ一つの表現を問わない。審査をしていないから基本アンデパンダンでの自由参加である。しかし単なる自由参加ではない、自由な“気分”の下、ナデガタが緩やかに編成し、ゲストを組み込むことでさらに多様性が生じ、互いが刺激あってカオティックな濃密な場や、グルーブ感が生まれた。それとは対照的な一つの別の展開が今回あいつりにあわせて旧東校の最も奥まった場で行っていたナデガタのひとりである中崎透のキュレーションによる「としのこえ、とちのうた。」展であった。これまでに展示してきた Recas の人々の作品を中崎の絶妙な場の読み込みと展示でひそやかな印象深い展示となっていた(何と6,520人が来場!)

この展示も含めて、今回はあいつりの最終週とその一週前の土日に出品作品である高嶺格の作品も設置された美術館に隣接した旧東高校で(ゲスト6組も含め Recas の人々を中心に50組が参加した)「HYBRID BUNKASAI II」を開催したが、美術館の臨時駐車場ともなっていた旧東校でふらっと立ち寄るひとりとまきこみ、台風直撃で日数が減ったものの、3日間で来場者は5,200人となった。しかし本来の評価は数ではない。まさしく祭りに様々な場所で同時多発的にイベントという名の事件が起きていた。誰もが全体をよく把握できないままに突然起こる事々。見ている人も行っている者もそれを創造的に楽しんでた。

実はあいつりを迎える半年前の1～2月の一ヶ月弱の期間、県と市による共同の企画として「あいちトリエンナーレ地域展開事業」の展覧会「Windshield Time」を行った。筆者はそのキュレーションを担当したのだが、その際に展示を盛り上げてくれたのが、ガイドボランティア、そしてボランティアに登録し看視等で働いてくれた方たちであった。そしてその際にあえて現代美術作家の中に展覧会内展覧会として組み込んだのが、市民アートの人々であった。そのことが「美術」の内部批評ともなることを期待していた。その構図はそのまま、美術館を中心とした豊田市の美術状況のひな型ともなっていただろう。

先に触れたように、各地の状況を見れば分かるが、美術は美術館にだけあってダメなのだ。必ずその土地の中に作家を中心に市民が集まるところには、街に小さくても暮らし議論し、また自由に使える場が必要なのだ。それは民間の画廊か、酒場、喫茶店であるかも知れない。残念ながら現在の豊田市には刺激的なそのような場が決定的に無いことが美術以外の作家たちからも聞こえてくる。そこで行政はどのように関わるか?本来は自然発生的で民間にあるべきであるが、地域社会が希薄化している現代社会の中に、世代を跨ぎ多様な人と出会う直接経験の場は急速になくなってきている。普段からの自由にして時に濃い広場(フォーラム)が必要なのだ。

ここで市の方針ではなく残念ながら市民アートプロジェクトの拠点であった TPAC も無くなり、また旧東高校も新博物館建設のために解体される。なるほど表面的にはあいつりのための行政の一次的事業に見えかねない。しかしこのプロジェクトの成否はこの後にこそあることは、初めから承知済みのことである。イベントがまず在りきではなく、何よりも持続的な活性化した常態を作り出すために、仕掛けとしてイベントもあると考えるべきだろう。小さな場であろうと、ワークショップや美術プロジェクトを核にそのような創造的な社会のペースを作り出す。そこは生きている場の渦中から始まっているから、食にも住にも自然に繋がっていく。すでに豊田には橋の下世界音楽祭という大きな手本がある。われわれは美術を核にさらなる市民の自由な創造的な営為の場づくりをしているのである。

天野 一夫(豊田市役所文化振興課 美術評論家)

## データ集

### 広報記録

#### 報道

- 7月11日 新三河タイムス 「『情』で打破せよ 人類の課題 初の豊田開催 11作家決まる」
- 7月18日 新三河タイムス 「喜楽亭、旧豊田東高…会場は街中にも 時空超え作品に魂宿れ」
- 7月19日 中日新聞豊田版 「豊田も主会場に 13組が発表 独自オープニングイベント」
- 7月25日 新三河タイムス コラム（菊石聞意思）「とよトリ隊」
- 7月26日 中日新聞 カルチャー特集 「3年に1度の祭典 来月1日開幕」※トモトシ作品
- 8月1日 中日新聞豊田版 「きょう豊田、名古屋で開幕 『子守り』題材の作品も」
- 8月1日 朝日新聞三河版 「感情・情報・情け・・・揺り動かす あいちトリエンナーレきょう開幕」
- 8月9日 矢作新報 「旧波満屋旅館に期間限定カフェ あいちトリエンナーレの一環」
- 8月21日 中日新聞豊田版 「不自由展問題 豊田に余波」
- 8月22日 東海愛知新聞 「抗議続々 展示変更も」
- 8月29日 中日新聞 カルチャー特集 「見る歩くあいちトリエンナーレ 上」※小田原のどか、しんかぞく作品
- 9月4日 中日新聞豊田版 「不自由展影響 豊田会場は限定的」
- 10月9日 中日新聞豊田版 「抗議の展示 元通りに」
- 10月24日 新三河タイムス 「市美術館2展覧会有終 トリエンナーレ『とよトリ隊』が連携」
- 12月2日 中日新聞三河版 「ラグビーW杯 トリエンナーレ 豊田のボランティアに感謝」

#### 市・関係団体広報誌

- 6月1日～ ギャラリーインフォメーション6月号～10月号 「あいちトリエンナーレとは」
- 7月1日 豊田市文化振興財団発行文化情報誌カレント 2019 夏季号 「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」
- 8月1日 広報とよた8月号 特集2ページ「トリエンナーレって何だ？」

#### 雑誌・フリーペーパー

- 2018年11月18日 豊田市デイズ 2018WINTER Vol.1 「2019年、豊田のまちなかがアートで染まる。」
- 8月1日 まちなか PRESS 8月号 「あいちトリエンナーレ」

#### ラジオ

- 7月30日 FMとよた 豊田市政番組 ホットニュースとよたイブニング  
「あいちトリエンナーレ 2019 豊田会場での展開について」
- 8月5～10日 FMとよた LOVE LINK インタビュー番組（トモトシ）
- 8月10・11日 FMとよた 豊田市政番組 ホットニュースとよたホリデー  
「あいちトリエンナーレ豊田会場」（美術館他）
- 8月9～14日 FMとよた LOVE LINK インタビュー番組（和田唯奈）
- 10月1日 FMとよた ホットニュースとよたイブニング 「市民公募型の文化祭『HYBRID BUNKASAI II』」

### 会場別入場者数

| 会場名                    | 観覧時間(日)           | チケット | 観覧者数 <sup>※</sup> |
|------------------------|-------------------|------|-------------------|
| ①-① 豊田市駅下インフォメーション     | 10時～18時           | 不要   | 14,266            |
| ①-② ラーメン店跡地            | 10時～18時           | 不要   | 14,675            |
| ①-③ 薬局跡地               | 10時～18時           | 不要   | 18,401            |
| ①-④ 洋品店跡地              | 10時～18時           | 不要   | 18,631            |
| ①-⑤ 観光会社事務所跡地          | 10時～18時           | 不要   | 15,364            |
| ② シティプラザ               | 10時～18時           | 不要   | 8,084             |
| ③ 新とよパーク               | 10時～18時           | 不要   | 13,708            |
| ④ 喜楽亭                  | 10時～17時           | 不要   | 17,372            |
| ⑤ 豊田市民ギャラリー            | 10時～18時           | 不要   | 12,582            |
| ⑥ 旧豊田東高等学校             | 10時～17時30分        | 不要   | 49,404            |
| ⑦ 豊田市美術館               | 10時～17時30分        | 要    | 51,599            |
| アートプレイグラウンド「しらせる」      | 10時30分～17時        | 不要   | 1,001             |
| 田中功起エクステンション企画         | 9/21              | 要    | 114               |
| ⑧ 豊田市民文化会館（パフォーミングアーツ） | 9/21、9/22         | 要    | 309               |
| ■ とよた大衆芸術センター [TPAC]   | 10時～18時（金・土は～20時） | 不要   | 7,238             |

※P.4の総来場者数とはカウントの方法が異なります。

